会長の時間 第 16 回 2021 年の抱負

日出ロータリークラブ
会長　加賀山 茂

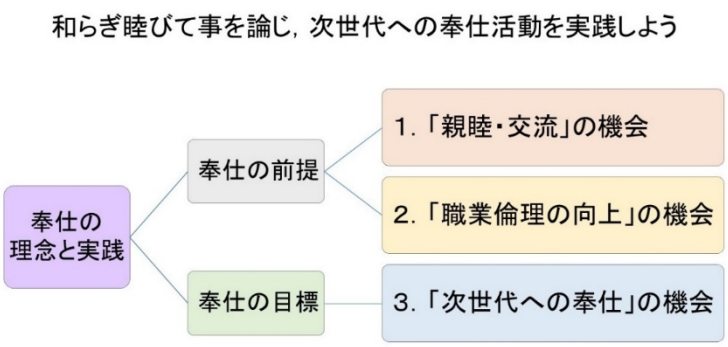
はじめに

これまでの会長の時間で，私は，ロータリークラブの基本的な理念について，「四つのテスト」の意味（第 1 回），「ロータリーの目的」の意味（第 2 回），「五大奉仕部門」（第 3 回），「公平とは何か」について，タクシーの相乗りの場合の料金の公平な負担について検討させていただき（第 5 回），「微笑みを微笑みで返す」とか「いただいたら，お返しする」とかという共感脳の抱える「やられたら，やり返す」というジレンマ（第 6 回），偽りの親睦と四つのテストの関係（第 7 回），新型コロナウイルス感染症対策（第 8 回），善行とは何か（第 9 回），善行褒章とその基準（第 10 回），善行褒章基準の日独比較（第 11 回），子ども食堂（第 12 回），地方創生（第 13 回），コロナ禍における国民の三大義務の支援（第 14 回），機会の三つの扉の応用（第 15 回）について話しました。

そして，いずれの回においても，本年度の RI 会長（Holger Knaack 氏）のテーマである「ロータリーは機会の扉を開く」を活用させていただき，3 つの扉の色に即して，赤い扉は，「親睦（和らぎ睦び）」として，黄色の扉は，「職業倫理の向上」として，青の扉は，「次世代への奉仕活動の実践」として整理させていただきました。

今回は，2021 年を振り返り，2021 年の抱負を語りたいと思います。

１．加賀山年度の会長のテーマ



日出ロータリークラブの今年度の会長のテーマとして，私は，「和らぎ睦びて事を論じ，次世代への奉仕活動を実践しよう」を提案しました。これは，十七条の憲法第 1 条の後半部分にある「上和(かみやわ)らぎ，下睦(しもむつ)びて，事を論じるに諧(かな)うときは，すなわち，事理(じり)自(おの)ずから通(つう)ず，何事(なにごと)か成(な)らざらん。」という和の精神と，ロータリーの奉仕の前提としての親睦，および，奉仕の理念を融合させたうえで，奉仕の理念の実践を，特に，次世代への奉仕活動に集中させることを狙ったものです。

２．会長のテーマの今年度における実践

(1) 会長の時間におけるロータリークラブの基本理念・重要概念の解説

会長に就任して以来，例会ごとに行う「会長の時間」において，私は，ロータリークラブの基本理念とか，基本的な用語を取り上げ，今年度の RI 会長（Holger Knaack 氏）のテーマである「ロータリーは機会の扉を開く」を引用しながら，赤（親睦），ゴールド（職業倫理），青（次世代への奉仕）に即したスピーチを行ってきました。

その概要は，前回の会長の時間でまとめて報告させていただきました。

(2) 外来卓話の依頼

毎回の例会の花である，卓話について，例年通り，委員会の活動に関する内部卓話を委員会の委員長にお願いするとともに，私たちの活動に有益な助言をしてくださる方々を外来卓話の講師としてお招きし，例会を有意義なものとすることに努めました。

(3) ニコボックスへの寄付

会長になったからというわけではありませんが，コロナ禍で政府からの特別給付金の受け取りを私が拒絶したことを残念がられたことを契機として，その給付金を受け取って寄付をしたのと同じ状態にさせていただこうと，毎回，トリプルの寄付をさせていただいております。

(4) 各種委員会の活性化の取組み

委員会の活動を活性化するために，委員会の委員長に，例会で活動報告をするように促しております。青少年奉仕委員会（善行褒章の取組み），公共イメージ委員会（ロータリーの友の記事紹介），クラブ戦略委員会（イエナプラン・オランダ研修の計画）の委員長には，たびたび委員会の報告をいただきました。他の委員会の委員長にも，積極的な活動と活動報告を促したいと思います。

(5) イエナプラン・オランダ研修の準備としての小学校校長との懇談

クラブ戦略委員長から，小中学校の教員を毎年若干名，イエナプラン・オランダ研修へ派遣する構想について，40 周年事業の一つとして位置付けるという提案をいただきました。

私も，日出町のすべての小学校を訪問し，校長先生に，イエナプラン・オランダ研修の意義について，説明をさせていただきました。

(6) 子ども食堂の支援のための日出町社会福祉協議会との懇談

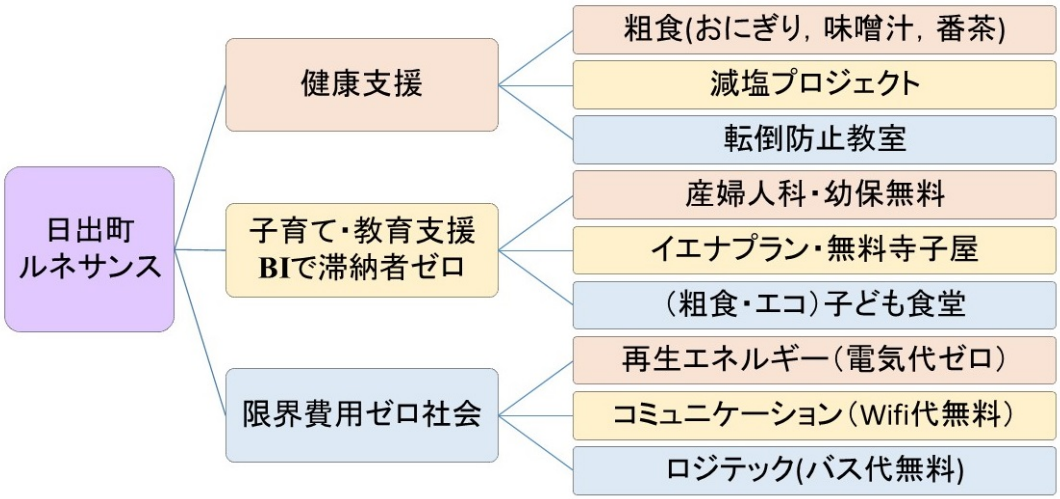
コロナ禍で失業率が増加しており，わが国おいては，貧困家庭の子どもが 6 人に 1 人という高率になっています。給食だけで一日のカロリーを摂取したり，給食を食べずに家庭に持ち帰って姉妹兄弟に分け与えたりするという例まで生じているのが現状です。そこで，日

出ロータリークラブとしても，熊本のロータリークラブの活動例を参考にしながら，日出町の子ども食堂の支援，キッチンカーの購入による子ども食堂の支援について，その調査を開始することにしました。手始めに，子ども食堂の支援を管轄している日出町社会福祉協議会との懇談を開始したところです。

３．来年度に向けての日出町活性化のためのプラン

日出ロータリークラブが「日出町に貢献できる奉仕活動は何か」を考えるに際して，日出町が，子育て世代にとって魅力的な町となるために，何をすべきかを総合的に考察してみました。

例によって，赤，ゴールド，青の三つの機会の窓の考え方を活用して，子育て世代にとって魅力ある町にするためには，第 1 に健康支援，第 2 に子育て・教育支援，第 3 に再生エネルギーの活用によって，限界費用をゼロに近づける活動の重要性に着目しました。



(1) 健康支援

第 1 の健康支援については，イギリスで成功を収めている減塩プロジェクトに倣って，心臓疾患の減少を実現すること，精白糖の利用を制限することによって，糖尿病予備軍を減少させること，子ども食堂のメニューを粗食を中心とした健康メニューとし，地産・地消，食品ロスゼロをめざすとともに，転倒予防教室を開催して，ストレッチ・筋トレを普及することによって，一人ひとりの町民の健康な体作りを支援する必要があると思います。

(2) 子育て・教育支援

第 2 の子育て・教育支援については，子育て世代を町に呼び込むためにも，産婦人科・幼保費用を無料とすること，教員の資質を向上させるために，40 周年事業として，小中学校の教員をイエナプラン・オランダ研修への派遣を開始すること，先に述べた子ども食堂と無料の寺子屋塾を各駅舎に開設し，キッチンカーで，各小中学校と連携することが必要

だと思います。

(3) 限界費用ゼロ社会を実現するための支援

第 3 の限界費用ゼロ社会の実現に関しては，町にはたきかけて，国の補助金等を利用して，再生エネルギーを利用できるためのインフラを整備して電気代の無料化をめざすこと，5G，または，WiFi 環境を整備して，インターネットの利用料の無料化をめざすこと，シェアリングカーとマッチングの技術を使って，運賃の無料化を目指すことが必要だと思います。

(4) 財源の確保のための支援

そのようにして，電気代，通信コスト，運送コストを限りなくゼロに近づけることができれば，安い費用で高品質の商品やサービスを提供することができ，比較的優位の原則によって，地方の産業が飛躍的に発展し，税収を増加することが見込まれます。その税収を使って，滞納者をゼロにするための支援活動を行い，一人ひとりの市民が健康で文化的な生活を送れるようにすることが，町の責務であり，それを支援することが日出ロータリークラブの奉仕活動の大きな目標となるように思います。